

東日本大震災IATSS特別シンポジウム

# 経済学からの視点からの議論

東京女子大学 現代教養学部

国際社会学科 経済学専攻

二村 真理子

# 大震災による経済への影響

- 被災者は生活の基盤を失う
- (直接の被災地以外でも)一時的に流通機能が麻痺
- 被災地の生産者は生産基盤、輸送手段を失う
- 被災地以外の生産者も、サプライチェーンの分断により、影響を受ける

etc.

# 物流・ロジスティクスの麻痺

- 消費者 : 店舗に商品が届かない  
被災地に支援物資が届かない  
⇒ 輸送に問題(特に、インフラ)
- 生産者 : サプライチェーンの分断による、  
日本の他地域、世界への影響  
⇒ 各企業は一部システムを見直し  
輸送に問題(特にインフラ)

# インフラ復興の視点 短期か？ 長期か？

早期の復旧が必要であるが、

- 短期的な対応が必要な部分  
⇒ 早さが重要
- 中長期的な視点が必要な部分  
⇒ きちんとした議論を行う必要性  
地域ごとに自らの視点で整備することが必要

# 日本の財政状況は極めて厳しい状態に・・・

23年度末の「国の借金」は1024兆円の見通し  
(2011.10.28)

= 予算制約は厳しい

- 「優先度の高い投資から行う」という発想が必要
- 複数案ある場合には、あらかじめ効果を推計し選択する
- 将来的なビジョンに基づいて、各地方の意思で決定していくことが望ましい  
⇒ 長期的視点の必要性

# 経済学的視点から考える復興の在り方

厳しい予算制約の下、効果的に復興を進めることが求められる。

- 日本経済に負担をかけすぎない復興案とする
- 各地域の実情にあった、必要な投資を選択する
- 費用対効果の大きいプロジェクトを選択する
- 各地域の力を引き出すようなソフト面の工夫（特区の設定など）の可能性を探る

# 最後に

今回の震災からの教訓

「絶対に安全」とは神話である。

- どのような対策をとったとしても、100%の安全は得られない
  - ⇒ 1万年に1回の地震(?)発生の可能性
- ハードのみによる安全対策はむしろ危険であり、ソフトの対策が補完的に行われることが必要